



VMware Horizonで仮想デスクトップを刷新 働き方改革に向けた 利便性とセキュリティ強化を高度に両立



損保ジャパン日本興亜

業界

INSURANCE

課題

- 保険会社間の競争激化への対応
- 働き方改革を進める上での従業員の利便性向上
- 仮想環境下におけるセキュリティの強化

ソリューション

新しいシンクライアント環境に、VMware HorizonとVMware vSphere、VMware vSANを採用。2万3000ユーザーを対象とした仮想デスクトップ環境の整備により、従業員の利便性と運用負荷の削減を実現。さらにVMware NSX Data Centerとセキュリティ製品を組み合わせ、仮想デスクトップ同士の通信を禁止し、仮想環境下において感染の拡散を防ぐことを可能にした。

導入効果

- VMware Horizonによるソフトウェアのデリバリーと運用の迅速・簡易化
- VMware vSphereとVMware vSANの活用でスケーラビリティとコストの最適化を実現
- システムの刷新による外出先からのアクセススピードの向上
- VMware NSX Data Centerとセキュリティ製品の組み合わせにより、仮想環境におけるセキュリティを強化
- 利便性に優れたテレワークの実現と攻めの経営戦略の加速

導入環境

- VMware Horizon®
- VMware vSphere®
- VMware vSAN™
- VMware NSX® Data Center

プロフェッショナルサービス

- 要件定義支援
- プロジェクト運営支援
- 基本設計支援 (Horizon, NSX, App Volumes, Identity Manager)
- アプリケーション仮想化支援 (ThinApp)
- 運用高度化 / 自動化支援
- キャパシティ管理 / 性能分析支援
- テクニカルサポートサービス (TSS)
- クリティカルサポートマネージャーサービス (CSM)

SOMPOグループの中核会社として、顧客の安心・安全・健康に資する幅広い事業領域にチャレンジし続ける損害保険ジャパン日本興亜(以下、損保ジャパン日本興亜)。同社では、保険会社間の競争激化への対応と、働き方改革を進める上での従業員の利便性向上、さらなるセキュリティ強化を実現するため、シンクライアント環境「SOMPOライン」に、VMware Horizon、VMware vSphere、VMware vSANとVMware NSX Data Centerを採用しました。2万3000ユーザーを対象とした仮想デスクトップ環境の整備により、高効率かつ柔軟なテレワークの実現と攻めの経営戦略を加速させています。

デジタル変革に向けた 新たな仮想デスクトップ基盤を構築

現在、損保ジャパン日本興亜では時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を実現する「ワークスタイルイノベーション」を推進しています。

「現在、損保業界は激動の時代を迎えています。こうした市場の変化にいち早く対応していくためには、今まで以上に多様な人材が活躍できる環境や、生産性を高めるITインフラを用意し、新たな発想やサービスを迅速に創出していかなければなりません」と同社の遠山 岳志氏は語ります。

それを支えるITインフラとして、同社は損保業界に先駆けて2013年からデスクトップ仮想化システムによるシンクライアント環境を導入。営業現場へのセキュアなノートPCの持ち出しや、BCP(事業継続計画)への対応、ITガバナンスや運用コストにも配慮したテレワーク環境を整備してきました。さらに、2015年からは老朽化・複雑化したシステム基盤・構造を刷新する「未来革新プロジェクト」も立ち上げ、全社を挙げたオフィスインフラ改革を積極的に推進しています。

「こうしたオフィスインフラの中核を担うのが仮想デスクトップです。しかしシステムの老朽化により、新しいシステム環境への移行が必要となりました。それに合わせて、デジタル変革をより推進できる性能やセキュリティの強化、運用負担の軽減といった改善も図ることにしたのです」と同社の雪吹 泰伸氏は説明します。

また仮想デスクトップの実現方式がSBC(Server Based Computing)だったため、ユーザー独自のアプリケーションが柔軟に利用できず、特定部門からの要求に応えられなかったことや、消費リソース増加に伴うシステム

性能の低下なども課題となっていました。

「システム性能の低下は、スケーラビリティとも直結する課題でした。ユーザー数の増加に応じてスケールアウトしたいと考えても、SBC方式は、まず大きなストレージを追加して、まとまったユーザー数単位で増やすことしかできません。どうしても予算的なハードルが高くなっていったのです」と、同社の小林 真郁氏は語ります。

VMware Horizonが 最良の選択と確信

こうした損保ジャパン日本興亜の要件を満たしていたのがVEMウェアの製品でした。

「綿密に調査した結果、われわれの要件を満たす仮想デスクトップのソリューションはVDI方式のVMware Horizonがベストだと判断しました。例えば、ある部門だけに特定のソフトウェアを配布したいと考えた際、個別ソフトウェアのデリバリー機能はHorizonが優れています」と、遠山氏は語ります。

損保ジャパン日本興亜が評価した点の1つが、スケーラビリティとコストの最適化を実現するvSANをベースとしたHCIとフラッシュストレージ連携のハイブリッド構成です(図)。

組織改編などでユーザー数が急増する場合も、IAサーバに搭載されたSSD/HDDをソ



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
IT企画部
企画グループ
グループリーダー
遠山 岳志 氏

VMware Horizonで仮想デスクトップを刷新 働き方改革に向けた 利便性とセキュリティ強化を高度に両立

「綿密に調査した結果、われわれの要件を満たす仮想デスクトップのソリューションはVDI方式のVMware Horizonがベストだと判断しました」

損害保険ジャパン日本興亜株式会社
遠山 岳志 氏



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
IT企画部
企画グループ
特命課長
雪吹 泰伸 氏



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
IT企画部
計画推進グループ
課長代理
小林 真都 氏



SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部 リーダー
明田川 裕史 氏



SOMPOシステムズ株式会社
ITシステム本部
里見 智徳 氏

カスタマープロフィール

2014年9月、損害保険ジャパンと日本興亜損害保険の合併により誕生した損害保険会社。SOMPOホールディングスグループの中核企業として、損害保険事業を中心にお客さまの安心・安全・健康に資する最高品質の商品やサービスの創造を目指している。2020年4月に「損害保険ジャパン株式会社」に変更予定。

ソフトウェア機能によって統合・制御するHCI (Hyper-Converged Infrastructure) なら、ノード増設を最適なコストでリニアに拡張することができます。

IT企画部は新仮想デスクトップ基盤の構築に先立ち、社内各部署から入念なヒアリングを行った後、2018年11月から、システム構築に着手。

翌2019年7月より、従業員約2万3000ユーザーが利用するVDI方式による仮想デスクトップ環境「SOMPOライン」の稼働が段階的に開始され、同9月に全国展開が完了しています。

VMware NSX Data Centerの導入により セキュリティも大幅強化

新たに構築されたSOMPOラインは、全国3カ所のデータセンターに仮想デスクトップ基盤を分散配置しています。本番環境はデータセンター1拠点あたり、VMware vSANをHCI構成で搭載したサーバが約150台(計約450台)配置され、1センターに、利用ユーザーの半数である1万1500人のシンクライアント環境を提供しています。仮想デスクトップのマスターは1つに統合されており、各部署からの要望によるソフトウェア配布は個別にカスタマイズする仕組みです。これにより、ユーザーの利便性を損なわずに、ソフトウェアの導入と運用を以前より簡易化できるようになっています。

「仮想デスクトップ基盤の構築は3センター並行で進められ、構築期間は1センターあたり約2.5ヶ月と非常に短い期間でできました。

システムのパフォーマンスも向上しています。以前は、始業時などにアクセスが集中して処理速度が低下するいわゆる「ログオンストーム」

という事象が発生していましたが、新基盤では、オールフラッシュストレージを活用することで、処理速度を高めました。「端末性能が上がっている部分もありますが、システムが立ち上がるまでの時間を短縮できました」とSOMPOシステムズ里見智徳氏は語ります。

小林氏も「利便性を高めるため、チューニングには徹底的にこだわりました。外出先からアクセスする際の速度は、当初130秒ほどかかっていましたが、VUEMウェアと何度も意見を出し合いながら、現状では半分以下に縮めています」と続けます。

セキュリティの強化も図られています。具体的にはVMware NSX Data Centerとセキュリティ製品を組み合わせ、仮想デスクトップ同士の通信を禁止。またセキュリティ製品がマルウェアを検出した際にVMware NSX Data Centerの分散ファイアウォールと連携し、該当する仮想デスクトップを自動隔離します。これにより、管理者の手を煩わせることなく感染の拡散を防ぐことが可能になりました。

今回のプロジェクトが成功したポイントの1つは、パートナーも含めた3社連携のチーム力にあるとSOMPOシステムズの明田川 裕史氏は言う。「システム開発ベンダー、コンサルタントとして入っていただいたVUEMウェア、そしてわれわれが、立場の違いを乗り越えて1つの開発チームとして動くことができたのが最大の勝因だと思います」

ワークスタイルイノベーションを通じて、保険の先の、新たなビジネス領域への挑戦を始めた損害保険ジャパン日本興亜。新たな価値創造の可能性をきり拓くIT基盤の進化は、そのスピードを間違いなく加速させていくことでしょう。

